



学術講演会	
テ ー マ	韓国における日本浄土教の研究動向
開催日時	2018年7月16日(月) 16:45~18:15
開催場所	龍谷大学大宮学舎西翼2階大会議室
司 会	杉岡孝紀(龍谷大学農学部教授)
講 演 者	金浩星(韓国・東国大学校佛教大学佛教学部教授)
主 催	龍谷大学世界仏教文化研究センター 親鸞浄土教総合研究班 真宗善本典籍プロジェクト
参加人数	18名



会場の様子
(龍谷大学大宮学舎 西翼2階大会議室)

❖ 講 演 の 概 要 ❖

2018年7月16日(月)、学術講演会『韓国における日本浄土教の研究動向』が開催された。はじめに、発表者の金浩星氏(韓国 東国大学校佛教大学佛教学部教授)によって、18~19世紀の韓国では「三門修行」として禅や華嚴とともに念仏も行われていたが、現在は説法の内容等も禅が中心となり「念仏信仰」「浄土信仰」は忘却されつつあることが紹介された。また韓国の学界において現在、浄土思想の専門的研究者はほとんどいないということが付け加えられた。

そのような中、金氏は現在、浄土世界を信じられない現代人を説得する論理を、親鸞と

一遍に見出し、考察を行っているという（『近年韓国に紹介されている日本の浄土仏教』南山宗教文化研究所 研究所報、第 28 号 2018 年）。また、金氏同様、日本の「浄土信仰」の研究を行っている元永常氏は、法然と親鸞の浄土思想の共通点と相違点を「修行」と「悟り」すなわち、禅仏教に近い立場から研究を行っているという。

韓国において浄土仏教の研究への関心はまだ希薄であるが、現在東国大学では、金氏の周りに学生が集い、研究会なども開催されており、今後新たな展開が予測される。



金浩星氏

【文責】 龍谷大学世界仏教文化研究センター博士研究員 唐澤太輔